

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500516		
法人名	有限会社 サロット		
事業所名	グループホームさくらひまわり		
所在地	愛知県尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kiban=true&livingsvcCd=2374500516-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成26年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

比較的軽度で入居される方が多いが、入居期間が長くなり年齢を重ねているのでやや重度化してきている。それに伴い出来ることが少なくなってきた。それでもできるだけ今まででの生活が続けられるよう支援している。また、できるだけ利用者自らやろうと思う気持ちを引き出す関わり方をしていることとスタッフ一同が日々模索している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に「人によさしい街づくり賞」の表彰を受けた木造平屋の2ユニットのホームである。前を流れる愛知用水の向こうには森林公園があり散歩や外気浴の機会が恵まれている。入居者が長い歳月をホームと共に過し年齢が高くなるにつれ最後の過ごし方について家族からのご要望が浮上している。ご家族の理解や協力の中で医療連携も視野に入れて考えていく必要があると重く受け止めている。長く勤務している職員も多く入居者や家族の安心につながっている。職員も自分たちの介護がプラスに影響していると自負している。管理者は職員の惜しみない適切な支援を認めるとともに「ひとまわり大きな職員」に育て欲しいと日々指導を怠らない。医療面で内服薬の微調整、生活面で毎月の通信やブログでご家族の安心に添えている。地域密着型のホームとして課題は沢山ある中、これから色々な不自由さを実感される入居者の笑顔にどのように応えられるかをチームで取り組み検討して行きたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「この待ちで自然に暮らし笑顔の見られる介護」で、職員の目の届く場所に掲示して朝礼や研修で話し合いをシケアに繋げている。	「この街で自然に暮らし笑顔の見られる介護」を理念として生活支援の中で実践につなげている。毎日の申し送りや定例のスタッフ会議で話し合う機会を持っている。管理者と職員は理念の意図する所に考慮しながら共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近くの柏井保育園の園児が定期的に来訪し、交流している。 ボランティアの方がハーモニカや歌や手品等を毎月行ったださる。 中学生の体験学習も受け入れも行っている。	地域のつながりとして町内会の行事はホームとしてできる清掃等に参加している。保育園との交流や中学生の体験学習、幾つかのボランティアを受け入れ入居者の楽しみとなっている。近隣の店を利用する機会が顔馴染みになっている。	ホームや地域の状況変化に伴い、新たに地域の一員としてつながる機会ができる事や事業所から交流できるアイデアや意見が出ることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に近隣の方にも参加していただき意見を伺い、理解してもらえるようしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催している。 現状報告を行い、スタッフも参加し意見を聞き、ケアに繋げている。	運営推進会議は概ね2ヶ月に一回開催しているが、今年度は5回の開催である。参加は入居者、家族、町内会役員、市職員、法人代表、管理者、職員である。家族の意向や意見を踏まえ状況報告をしている。専門職の方に講演で幅広い知識とサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は年に6回以上開催する取り組みであるが尾張旭市は年に4回の開催でも良いとされている。事業所独自の行事や講演を計画してサービスの質に努めていることに今後も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村で開催される研修や講習会へ参加している。 市役所の担当者がホームのイベントに参加してくれている。	月に1回、サービス事業者連絡協議会に参加して情報交換や指導を受けている。市の窓口では相談や現状報告をしている。市の開催する研修会は管理者や職員が参加している。市から事業所の行事やお祝いに参加があり良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行い理解している。 朝礼やユニット会議で話し合い、本人様にとって一番良い方法を取っている。	身体拘束廃止の方針を重要事項や事務所に明示している。 朝礼やユニット会議で具体的な事例で話し合い職員全員で周知している。言葉での拘束や行動制限をしない対応を実施している。玄関に鍵をかけているが、鍵をかける弊害を理解し拘束にならない対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い理解するように努めている。 日頃よりスタッフ同士身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に対象者となる方がいらっしや、研修を行い制度について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の締結、解約時は入居者のご家族に十分に説明をしている。 改定の際は書面や面会時、運営推進会議等で説明し、理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にご家族様から出された意見や要望を聞き、敏速に対応して反映するよう努めている。	手作りの意見箱が玄関に置いてあり意見や要望を引き出す取り組みを実施している。管理者や職員は機会ごとに意見や要望を引き出せるように声かけをしている。毎月の通信や電話での直接対応 また運営推進会議、ブログ等で早い報告や実施につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、研修、朝礼の時などを用い意見を全員で考え提案している。	毎日の朝礼や月に1回のスタッフ会議で職員の意見を聞く機会がある。代表者は半年に一回面談を実施して個々の職員からアイデアや意見を聴く機会を設けている。働く意欲の向上や質の確保につなげ業務改善の提案には話し合い検討の結果反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度代表者、管理者との面談があり、勤務状況ややりがい等話し合える場がある。 スキルアップの研修の広告の提示や参加できるようしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一度研修を行っている。外部研修にも積極的に参加したり、スタッフ個別に必要と思われる研修を勧めたりしている。 最新の本やブログなど、参考になる情報を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者会議に参加し同業者との交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や興味のある事をご家族様や利用していたサービス関係者に聞き、本人となじみの関係を築けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を伺う中で情報収集に努め、早く信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向を伺い、今一番必要と思われる支援をできるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行っていたり、共に生活しているように感じていただけるように支援している。入居者同士良い関係が築けるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所しやすいよう心掛け対応している。通信やブログで利用者の暮らしを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や場所には入居後も利用してもらえよう家族と話し合い支援している。	近所の知り合いや友達の訪問があり継続している方が何人かいる。市の文化施設の見学や映画鑑賞をする。近くの桜並木、用水路を隔てた森林公園、近隣の東風記念館、バラ園に出かける等の馴染みある所へは楽しみにしている。以前から利用している床屋、美容院の利用やかかりつけ医の受診が継続できるように家族の協力と共に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入居された方は早くなじめるよう他利用者様との間に入るなどの配慮をし、孤立することがないように支援している。 利用者同士関わりあえるような配慮を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された後も面会に伺い、経過を見たり、要望に応じて相談や支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に伺いカンファレンスで話し合い希望に添えるよう努め、その人らしさを大切にしている。	入居時に思いや意向を本人・家族から聞き取っているが日々の関わりの中から汲み取れる言葉かけを工夫している。言葉にならない方へは提案をしたり、選びやすい選択肢の提示や言葉で本人本位の意向の把握に努めている。ほほえみの表情から本人の意向や思いが汲み取れると日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺いその人らしく過ごして頂けるよう取り入れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日10時にバイタルチェックを行い表情や声掛けで身体状態を見て把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週2回のユニット会議や朝礼で話し合いを行い、スタッフ同士の情報を共有し把握に努めている。	本人や家族の希望を踏まえ目標を立て介護計画を作成している。週に2回のユニット会議で話し合いモニタリングや評価をしている。毎日の朝礼で様子の報告、現状に即した計画となるようチームで取り組んでいる。入居者の状況変化には臨機応変に見直しをして職員の意見やアイデアを反映させた計画に繋げるよう確認をしながら共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を誰が見てもわかるよう記入し、情報やニーズを把握しスタッフ同士話し合い相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様にあった支援ができるよう新しい情報を収集するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物などを通じ地域の様子を知り暮らしに楽しみを持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる方はそのまま継続していただく。今まで特にかかりつけ医がいない方は往診に来ていただいている病院を紹介するなど、本人様の意向を伺い信頼関係を持てるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医を決めてもらっている。複数受診の場合も調剤薬局を一箇所にしている。管理者が看護師であることから医療面において入居者、家族の安心につながっていることがアンケートの結果ももうかがえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師ということもあり、すぐに相談し対応を対応している。 往診の先生や看護師、訪問歯科も適切に対応していただける環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	できる限り努めている。入院中は頻繁にお見舞いに伺い情報を把握をし、利用者を励ましホームに早く戻ってこれるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に管理者が説明し状態の変化に伴いその都度本人やご家族様に意向を伺うようにしている。	入居時に「重度化対応に関する指針」について説明し同意を得ている。状態に変化があるたび家族と一緒に話し合いをしている。看取りの事例はないが職員の教育も含め今後も検討していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員はAEDの講習を受講している。救急マニュアルを電話付近に置き救急時に焦らないようにしている。 他にも「まず人を呼ぶ」など冷静に対応できるよう常にミーティングなどで話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連絡を取り火災訓練をしている。 夜間帯の対応は少し手薄かもしれないが日中の対策はしっかりしていきたいと思う。	火災避難訓練は年に2回消防署の協力のもと昼間にベランダからの出火を想定し実施している合わせて消火器の使用方法の訓練も行っている。災害時の備蓄品はカレー缶やパックご飯、飲料水を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守ることの大切さを研修で学び、誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけている。	名前は本人及び家族に確認をし「さん」付けて呼んでいる。入居者の思いや意向を尋ねる時は、必ず居室で聞くようになっている。羞恥心を考慮し、入浴時には正面からではなく側面や背面からの介助を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの仕方などを工夫し、できる限り本人の思いを伺えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起きられる方や日中居室で昼寝や手紙を書いたり本を読む等一人ひとりのペースを大切にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容で髪を染めたり、一緒に服を買いに行くなどをして、その人らしいおしゃれができるようしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食はできる限り一緒に調理をしたり片づけをしている。毎週木曜日は食べたいメニューを作ったり季節のメニューを取り入れるなどしている。	メニューは栄養面のみならず、準備の段階で入居者の個々の力が発揮できることも考慮している。食事は職員も同じテーブルで摂り、きちんと目配りもされている。訪問時には盛り付けや後片付け、食器拭きなどしている入居者の姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は朝食ハーフス長くして、水分補給は10時15時19時過ぎにお茶の時間を設けている。カウンターに常に飲めるようにお茶を用意している。 夏場はORSやゼリーを作り脱水にならないよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアができる方は見守りをし、できない方はその方に応じた介助をするよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりのタイミングを掴めるよう心がけている。 その人なりのサインを見逃さないようにし、トイレでの排泄の大切さを意識している。	トイレ誘導は排泄パターンを把握し入居者の様子からさりげなく声かけをし、誇りやプライバシーを損ねないように支援している。ほとんどの利用者はトイレで排便できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分摂取してもらえるよう声掛けをする。 体操や散歩など体を動かしていただきなるべく薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本来なら寝る前に入ることが一番良いのかもしれないが、なかなか取り組めていない。 入浴の好きな方は希望されれば入れるように、ゆとりを持って入浴時間を設けている。	毎日、午後2時~5時に入れるようになっている。週4日程度入浴し必要に応じて随時シャワー浴を実施している。入浴拒否された場合も無理強いせず、シャワー浴や清拭に切り替えて清潔保持を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は「少し休みたい」「腰を伸ばしたい」と言われる方はベッドで休んでいただき、夜間の安眠の妨げにならない程度で起きていただくなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱に何の薬かを書いておき、一日に何錠という覚え方ではなく、目的をきちんと表示している。 副作用などは新しい薬になった時に注意事項を書きわかるように配慮している。症状や変化を記録に随時情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケが好きな方にはカラオケボックスと一緒にいき、喫茶店でコーヒーを楽しんだり、散歩に行くなど、個々に好きなことを楽しんでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など積極的に出かけている。 季節ごとに花見や外食に行けるよう支援している。	入居者の体調や天候に配慮しながら、季節ごとの外出(お花見、幼稚園の運動会)をしている。入居者の希望にそって買い物や喫茶店に1~2名で日常的に外出している。家族と共に出来ることも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる金額を持っていらっしゃる方もいる。 買い物や喫茶店での支払いをご自分でできる方はしていただけるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は一緒に散歩や買い物時に投函できるようにしている。 電話を掛けたい時は番号が押せる方は押して頂きできない方は手をかしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の飾り付けをし、四季を感じていただけるようにしている。 夏は暑すぎず、冬は寒すぎない環境に心掛けている。	廊下には外出時やおやつ作りの笑顔あふれるスナップ写真や習字を掲示し、季節の花も飾られている。ホールは静かで入居者はそれぞれが思い思いにテーブルに集い、表情も落ち着いており寄り添った支援がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに和室やソファや食卓テーブルがあり、その時の気分で好きな場所で過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのあるタンスや家具などを持ってきていただくなど、これまでの生活を大切にできるように心掛けている。	天井灯とエアコン以外は使い慣れた整理筆筒や布団、好みのカーテンを持ち込むことができる。畳を敷いたりベッドやテレビを置くなど、その人らしく落ち着いて過ごすことができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどわかりやすい表示をしたり、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、歩きやすさやわかりやすいよう配慮している。		